

～ラストエンペラーの実弟に嫁いだ侯爵令嬢～

あいしんかくらひろてん

「愛新覚羅浩展」が開催されます

杉並区立郷土博物館（大宮 1-20-8）では、清朝最後の皇帝・愛新覚羅溥儀の実弟・溥傑に嫁いだ愛新覚羅浩の生涯を紹介する特別展が 27 日から開催されます。本展では、結婚を命じられた浩が揺れ動く真情を綴った書簡を含む貴重な資料を数多く展示します。26 日には内覧会が行われ、浩の次女・福永コ生さんと区長によるテープカットセレモニーが行われました。特別展は、12 月 2 日まで開催されます。

愛新覚羅浩（あいしんかくらひろ）は、侯爵・嵯峨家の長女として、1914 年に東京で生まれました。浩の人生は、日本と中国の歴史に挟まれ、波乱に満ちたものでした。

1932 年、日本の関東軍主導のもと建国に至った「満州国（中国東北部）」。

当時、日満一体を強化したいと考えた関東軍は、満州国皇帝となった溥儀の実弟・溥傑に日本人女性を嫁がせる政略を施します。その候補に挙がり、嫁ぐこととなった浩は、1937 年、祖父の邸宅（現・郷土博物館所在地）から結婚式場となった軍人会館（後の九段会館）へ向かいました。この時、沿道から見送る人々を見た浩は、「（中略）沿道の風景だけははっきりと臉に焼きつき、終生私への無言の励ましとになってくれたのでした」と、後年の自伝の中で振り返っています。

降りかかる困難を命がけで乗り越えた浩の生涯をたどる特別展が、明日 27 日から郷土博物館で開催されます。特別展では、結婚前の不安と覚悟の入り混じった真情を親友へ綴った書簡を初公開するほか、浩の婚礼衣装などを展示します。

開催前日となる本日 26 日に、特別展の内覧会が行われ、浩の次女・福永コ生さんと区長によるテープカットセレモニーが行われました。特別展を見学したコ生さんは、「こうして縁のある場所に展示をしてもらい、両親も大変喜んでいることと思います。」と話していました。



日中平和友好条約締結 40 周年を迎えた今年、日本と中国の架け橋となった愛新覚羅浩の生涯をたどりに、ぜひ特別展へお越しください。

【問い合わせ先】

郷土博物館 電話 03-3317-0841